

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年3月31日

事業所名 交野市立児童発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88%	12%	・親子通園なので狭く感じる時もあるが、課題によって部屋を換えたりして、工夫して使用している。	・設置基準は満たしているものの運動面の活動スペースも兼用しているため入れ替え等が必要な状況とはなっている。新たな場所の設置は困難なため、運営を工夫して対応していく。
	2	職員の配置数は適切である	76%	24%	・設置基準を満たしているものの年度途中退職等あり、フリーの保育士や午後療育担当も午前療育の運営の応援にまわっている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	・視覚支援グッズなど作成し、親子がわかりやすい環境をつくっている。(随時園児の発達に応じてわかりやすいようカスタマイズしている)	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	94%	6%	・朝の仕事はじめ、午前午後保育のあとは、職員全員で、整理整頓・消毒など毎回行っている。	・雨の日は活動の場が限られているので、利用人数によっては部屋の利用の見直しを検討していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	・毎月各グループ また各設定保育の内容の目標をグループ会議や担当と話し合い決め、そして振り返りを行い次への目標に生かしている。 ・毎日保育の振り返りを行い、ケース記録をしている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・学期の懇談もしくは保護者のニーズに応じて懇談をかさね保護者の意向を把握し、親子の支援に必要な事など、業務改善につなげられるよう日々心がけている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・職員研修は、内部研修や外部研修(リンク等)を実施している。 ・発達障害についての研修や、オンライン研修など行っている。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・担当と児童発達支援管理責任者だけでなく、主任児童指導員、センター長と複数の目で確認し作成を図る。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	・こどものアセスメントツールという書籍を使用している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	・アセスメントをさまざまな業種と協力して時間をかけて丁寧に行っている	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・月一回以上保育の内容、ケース検討等を職員間で行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・月の活動、日々の活動で、子どもたちが生き生きと楽しめる活動プログラムの工夫を考えている。 ・日々子どもたちの発達レベルに応じた保育を検討確認している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・朝の会議で、その日の内容を伝え、職員みんなで役割分担の確認と保育の留意点などを共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・グループ間、主任児童指導員、児発管、センター長等としている。 ・毎日、保育内容や支援を振り返り、報告も行い共有を心掛けている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・毎日、支援やその日の様子を個人の記録用紙に記載し、検証・改善につなげている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・健康増進課、子育て支援課、こども園課、教育委員会、保健所などと必要に応じて連携し支援を行っている		
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・必要に応じて担当者会議を行っている		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	・主治医と面談をし、看護師を中心に行っている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・保護者の同意のもと、移行支援シートを担当、主任児童指導員、児発管と共に作成し的確に移行支援につなげられるように心がけている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・移行支援シートや引継ぎを行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	・大阪府発達支援拠点(リンク)より療育内容について、助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	・4.5歳児童は、公立認定こども園と交流保育を実施している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・登降園時、ノート、懇談などで様子を伝え、共通理解を持ち合うように努めている。 ・日々、保育での様子や課題について保護者と話をしている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	・あすなろ午前療育5歳児・並行グループ全員にペアレントトレーニングをグループにわけて全6回クールの研修を数回開催している。		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	・開始前のアセスメントは、特に時間をかけて説明をして、分かりやすく理解してもらえるように心がけている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・子育てにおける悩み等は、担当だけではなく、内容によって、その専門的な指導員と連携し支援できるように心がけている。 ・その場や相談ノートでの対応や、対面での話を聞く時間を取り対応している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	59%	41%	・父母の会組織はないが、学年ごとに保護者学習会を行ない、意見交換・交流の場を設けている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	・随時相談や懇談は受けられるように心がけている。 ・在園児や卒園時の相談には迅速に時間を取り、対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	・毎月センターだよりを園内掲示すると共にホームページにも掲載している。全体的な連絡はマチコミメールなども活用している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	94%	6%	園児に応じて視覚支援を用いたり、マカトンサインを使用している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	・ひな祭りには民生委員の方に参加していただいたり、隔週木曜日には『アリス』の日を設けて、遊戯室や園庭を地域の幼児に開放している。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	・毎月、地震か火災の避難訓練を行っている。また、職員を対象に防犯訓練も行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	・給食開始前に必ず食材や調味料について、面談を行って確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	・ヒヤリハットの記録と報告を行い、職員間で共有し事故やけが防止の努めている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。